

Raisersが今年1月に電子化されて、約半年がたちました。

紙媒体では雑誌ができて現物を手に取ったときの達成感があります。電子化されて、それがなくなったのは少々寂しい反面、印刷物が思っていた色と違っていたときの残念さがなくなりました。写真の画質などもウェブでみる場合は少々解像度が低くても大丈夫です。また、記事内に記載の参考URLは、画面上でクリックすれば、すぐ該当ページが表示されるので、読者には便利になりました。

それ以外にも電子化になり、色々変わりました。

誰でもすべての記事を読むことができるようになったこともその1つです。

通信建設関係者以外の一般の人もウェブからすべての記事にアクセスできます。

企業のCSR、新規プロジェクト紹介、女性社員のキャリア紹介などは業界内の人が読んで、一般の人が読んで、興味深い内容です。通信建設の現場に興味を持った人、たとえば就活生などが、現在の業界の状況を知る手がかりにもなると思います。

テレワークなどの普及で通信の重要性が高まり、それを支える通信建設の重要性も高まっています。これまでの読者層とは違った層がアクセスして目を通す機会も増えるかもしれません。

これをきっかけに通信建設という分野に興味をもって、通信建設会社に入社して、いつか記事執筆していただくことがあるかもしれないと期待しています。

(M.K)

日本では、昔から日常風景の中に、林立する電柱、網の目のような電線が溶け込み、違和感なく受け入れてきました。50年間生きてきて、電柱・電線のために自分が危険な目に合うことはなかったですが、阪神淡路大震災や東日本大震災などでは倒れた電柱の下敷きになったというような話なども聞き、やはり電線は地中に埋設し、電柱の数はできるだけ減らせると安心安全の面からも、景観の面からもベストだと思います。

海外に目を向ければ、ロンドンやパリ、香港などの無電柱化率は100%だとか。台北で95%、ソウル45%、ジャカルタ35%なのに対し、東京23区は8%。無電柱化率になぜこれほどの開きがあるかと言えば、欧米の主要都市は戦前から地中化が標準とされて都市開発が進んできたからだそうです。アジアでもソウルは1980年代に17%まで進んでいましたが、東京都では1990年代で3%と出足が遅かった。しかも、その20年後の2010年代になっても7%までしか進んでおらず、そもそも進み具合も遅いようです。

近隣住民との調整が難航したり、現在の無電柱化の方式が高コストだったり、進まない理由は多々ありますが、従来の方式にこだわり過ぎないことも重要かもしれません。海外では主流の方式「直接埋設方式」のデメリットを、日本ならではの工夫で改良し適用することはできないのでしょうか。

(Y.H)

### こんな時が危ない!

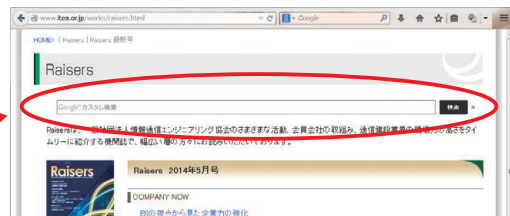
- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知していて、そこへ行った時

### 「Raisers」はホームページで閲覧可能です!

「Raisers」の最新号から過去記事までホームページで閲覧することができます。

<http://www.itea.or.jp/works/raisers.html>

また、ホームページ内の検索窓から読みたい記事の関連キーワードにより全文検索も可能です。是非ご活用ください。



Raisers第 69 巻 第 4 号 (通巻第749号) 2021 年 7 月 10 日発行

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水会ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)